

令和4年度 四万十市まち・ひと・しごと創生会議 議事概要

○日 時 令和5年3月29日（水） 10:00～12:07

○場 所 四万十市役所本庁舎3階 防災対策室

○出席者 委員13名のうち出席10名

○配布資料

会議次第

別 紙：前回会議での主な意見等

資料1：四万十市まち・ひと・しごと創生会議資料

資料2：四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略進捗管理シート

資料3：四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略 KPI 一覧

<結果概要>

1 開会

- ・新任委員の紹介
- ・会議成立報告

2 会長及び副会長の選任

- ・事務局から会長に岡村委員、副会長に高屋委員を提案し、承認される

3 前回会議でのご意見等

- ・事務局説明

別紙をもとに、前回の創生会議（書面開催）で提出された主な意見等について説明

【質疑等】

特になし

4 議事

(1) 四万十市の人口及び産業状況等について

- ・事務局説明

資料1の1～5ページをもとに、四万十市の人口及び産業状況、コロナ対策等について説明

【質疑等】

特になし

(2) 第2期総合戦略の進捗状況について

- ・基本目標1：事務局説明

資料1の6～8ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標1に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

会 長：基本目標1は、先日の四万十市産業振興計画フォローアップ委員会で議論された内容となります。その議論の内容について、私の記憶の範囲で紹介したいと思います。農業分野では、ぶしゅかんが柚子よりも反収が悪いという状況の中

で、取り組みの価値を問う意見がありました。これについては、ぶしゅかんのほうが柚子よりも栽培管理がし易いという面があり、複合的な農業経営においてはひとつの武器になるといったお話だったと思います。水産業分野では、あゆ王国高知振興ビジョンとの連動を意識して取り組まれていることがありました。商工業分野では、中心商店街の商業施設が撤退し、通行量が減少している現状や、コロナ禍でイベントが開催できないことが多々あったというお話がありました。観光分野については、以前に比べると状況は良くなっているが、キャンペーンあつての状況ということで、本当の勝負はこれからではないかというお話がありました。そのほか、四万十川の状況があまり良くないという問題意識を共有されました。

これから取り組むべきことは多々あるということで、産業間での連携や、商店街での連携など、取り組みを探していこうというお話だったと思います。

A 委員 : 商工業分野の戦略の柱1にある「顧客に選ばれる商工業の振興」について、商工業に限った話ではなく、農業も水産業も同じだと思います。買う人のニーズを分析し、それに沿った戦略を立て、顧客が欲しいものを作る、そういった視点が全ての業界において大事です。欲しい人がいると価格もおのずと上がり、そうすると後継者も生まれてくると思っています。

次に観光分野の「観光リーダーの発掘・育成」の取り組みですが、四万十市を活性化していくうえでは、観光を中心に組み立てていくのが現実的だと思います。昔は1回限りの観光客でも成り立っていた訳ですが、日本全体で人口減少する中で、観光地として伸びていくにはリピーターを増やす必要がありますので、おもてなしする側の人材発掘と育成が最も重要だと思います。観光客に度々来ていただくために、この人に会いたいと思える人材が1人でも多くいることが観光地としての魅力につながりますので、この「観光リーダーの発掘・育成」を中心に取り組んでいただきたいと思います。

会 長 : 観光情報をホームページで発信するにあたり、観光部署以外の教育委員会などが実施するマラソン大会などが、お客様目線では観光コンテンツになっているにも関わらず観光情報サイトに載っていないことがあります。また、一次産品では、生産者が作りたいものと店側が棚に置きたいものが違うというケースがあります。バイヤーサイドの意見、ニーズをどうやって吸い上げているかというご意見に近いかなと思います。

もう一点はおもてなし人材の育成について、ご説明いただければと思います。

観光商工課 : まず観光リーダーですが、幡多広域観光協議会の取り組みや、観光商工課に配置されているANAあきんど株式会社の駐在員が中心となり、おもてなし研修や観光ガイドミーティング、接遇研修などを実施して人材育成を図ることとしています。また、今年度は連続テレビ小説「らんまん」の関係もありますので、本市の歴史を案内する観光ガイドに草花ガイド研修に参加していただき、市内各所で観光案内できるように体制を整えたいと考えています。

市内宿泊者を対象としたクーポン事業で実施したアンケート調査では、本市を

2回3回と訪れているリピーターがかなりいましたので、更にリピートしていただけるように、おもてなしをしっかりと行っていきたくと思います。また、満足度という点では、「食」も大きいので、市内で食事をしていただくこともPRし、宿泊までつなげていきたくと考えています。

商店街への回遊、賑わいづくりになりますが、「はれのぼ」を拠点にして市内への回遊の流れをつくるほか、令和6年4月1日開館予定の文化複合施設において、イベントを含めた各種イベントが見込まれています。市外から訪れた方が商店街まで流れるように取り組んでいきたくと考えています。

B 委員 : 資料を拝見して、西土佐地域は、道の駅など事業展開を細かく記載していますが、中村地域は記載が少ないと感じます。例えば、道の駅でのイベントは記載があるが、はれのぼで開催されたイベントなどは記載がありません。中村地域の取り組みをもっと知りたいと思っています。

A 委員 : はれのぼですが、定期的なイベントや2か月に1回マルシェを開催するほか、外部の方の持ち込みイベントなども開催していただいています。コロナ真っ只中のオープンとなり、当初はテイクアウトのみの営業で苦しい思いもしましたが、最近は観光客も増え、直営のカフェやテナントもお客が増えています。カフェの売上は年々増加しており、イベントも行いながら通常営業も頑張っていきたいという状況です。

事務局 : 産業振興計画フォローアップ委員会では、もう少し掘り下げた説明をしていますが、先ほどの商品開発のマーケットインの視点など、資料ではご要望にお応えする十分な表現ができていませんでしたので、今回のご意見を取り入れ、今回の資料づくりに努めたいと思います。

C 委員 : 菜の花まつりに出店し、大勢の方にお越しいただきました。食べ物を買って、菜の花を見ながらゆっくり過ごすことができ、大変良かったと思います。ただ、会場内の道が悪く、食べ物を買ったり、菜の花を近くで見たりする際など、車椅子の方が行きづらいというお話しを聞きました。また、観光イベントとして定着し、多くの観光客が訪れていると思いますが、地域の高齢化が進み、地元だけでは実施が難しくなってきていますので、行政のサポートと、地元出身の方などにも協力してもらえるような仕組みづくりができればと思います。

観光商工課 : 入田ヤナギ林は河川敷ですので、舗装して対応することはできないと思いますが、頂戴したご意見をもとに、どうすれば車椅子の方々にもしっかり観光していただけるのか考えたいと思います。

令和5年度の取り組みですが、全ての方に優しい観光地づくりを目指していこうと考えています。市内の施設や観光地のトイレの有無や、先ほどのお話しにもあった道の状況など、観光客の方々が予め情報収集できるように発信していきたいと思っています。また、外国人の方々も来られますので、多言語対応もできるよう施設での研修なども行い、おもてなしができる観光地を目指します。

会長 : 夜須の海水浴場では、物部川DMO協議会がユニバーサルビーチプロジェクト

をされています。砂浜にマットを敷いて車椅子で移動できるようにするもので、参考になるのかなと思います。

- D 委員：事務局からの説明で、県下で分野を問わず人手不足感があるというお話がありました。これまで建設、警備、運輸、介護福祉などが人材不足分野と言われていましたが、ほぼ全ての産業で人手不足感があり、求人が出されている状況です。そういった中でも介護福祉分野の求人が突出して多く、全体の2～3割を占めています。求職者については、幡多管内1,200人のうち6割程が45歳以上の中高年齢者となっていますが、離島や遠方において求職者になっていない若い方がいることも考えられますので、オンライン職業相談の設備を構築し、オンラインでの職業相談や職業紹介を進めていく方向になってきています。次に雇用対策協定ですが、ハローワークと四万十市で本年度結んでおり、県内では高知県と高知市に次いで3番目となります。ハローワークと市のそれぞれの取り組みを協定の事業計画に盛り込むことで見える化し、数値目標を設定したうえで令和5年度から進めていくこととしています。

・基本目標2：事務局説明

資料1の9ページをもとに、第2期総合戦略の基本目標2に位置づける具体的事業の主な取り組みについて説明

【質疑等】

- E 委員：移住の取り組みですが、Uターン促進は良い取り組みだと思います。西土佐地域でも20代のUターン者が少しずつ増えてきたと感じますが、田舎暮らしをしたいという都市部からの移住者とは住宅のニーズが異なり、綺麗な家に住みたいという傾向があります。畑をやりたいという方も結構いますので、お試し住宅とセットにして移住プランにすれば来やすいという話も聞きました。移住者には薪ストーブに憧れている人もいて、県内で唯一、佐川町のほうで薪ストーブ設置に対する補助制度があるという声も聞きました。また、食に関心のある子育て世帯は多いので、四万十ふるさと給食の発信についても良い取り組みだと思います。

事務局：現在のお試し住宅には畑が付いていませんが、空き家バンクの物件で畑がセットになっている場合は、ホームページで情報発信しているところです。薪ストーブについては、把握できていませんので佐川町の取り組みを拝見し、今後の参考にさせていただきます。

地域企画課：西土佐地域の住宅ですが、中村高等学校西土佐分校の生徒のための若者住宅を一般の方も利用できるように条例改正を行うこととしています。現在6部屋全てが空いており、令和5年度は生徒の入居見込みがありませんので、Uターンや一般の方など、若者の住宅として活用できる状況となっています。

- F 委員：Uターン者は、地域の生活や文化など理解しており親和性が高く、地域に馴染

みやすいということで、県としても移住のアプローチを強化していくこととして
しています。来年度は、高知県に関係する方にSNSなどを活用した移住施策に
取り組む準備をしていますので、市とも連携していければと思います。

また、県の移住相談窓口について、これまでは住宅や仕事などで担当が分かれ
ていましたが、来年度から地域別の担当を置くことで、ワンストップで相談対
応できるように体制を変え、今までよりも相談し易い環境になりますので、市
や地域の協力をいただきながら移住施策をしっかりとやっていきたいと思いま
す。

・基本目標 3：事務局説明

資料 1 の 10 ページをもとに、第 2 期総合戦略の基本目標 3 に位置づける具体的事業の主な取
組みについて説明

【質疑等】

C 委 員： 地域で子育て支援に関わる団体や個人が意見交換する場を設けましたが、その
際、相談事があっても市役所には行きづらいので、ぽっぽでイベントを行う際
などに保健師がいれば話しやすいといった意見がありました。また、小 1 の壁
と言いますか、正職員からパートに切り替えたり、職業自体を変えざるをえな
かったりする場合があります。せっかく人材が育っているのにキャリアの
ストップになっているという声も聞かれましたので、市も民間もお互いに取り
組んで行かなければいけないと感じました。

E 委 員： 今年度実施したウェディング支援給付金は好評だったと思います。今回は結婚
する方が対象でしたが、フォトウェディングは時代的にもニーズがあると思
いますので、観光と結び付けて写真を撮りにわざわざ来ていただくというビジネ
スができれば良いのではと思いました。

・基本目標 4：事務局説明

資料 1 の 11 ページをもとに、第 2 期総合戦略の基本目標 4 に位置づける具体的事業の主な取
組みについて説明

【質疑等】

E 委 員： 黒尊川流域で集落支援員を配置するというお話でしたが、住民がどの
ような想いなのか、また、市の考えをお伺いできればと思います。

地域企画課： 集落支援員ですが、令和 4 年度は奥屋内上・下、玖木、口屋内の 4 地区で座談
会を各 2 回実施し、地域の活性化の想いなど聞き取りしてきました。黒尊川流
域は豊かな自然環境、紅葉や川の美しさなど魅力が多い一方で、市内でも高齢
化と人口減少が進行している地域となります。こういった地域の魅力を活かす
活動や住民の想いを実現するための取り組みとして集落支援員を配置するもの
です。活動内容としては、流域の活性化や課題解消に向けた地区協議への参加、
振興計画に基づく取り組みや地域行事の支援、地域情報の発信などを行う予定

としています。

(3) 第2期総合戦略の改訂（案）について

・時間の都合により会長説明

資料1の12ページをもとに、第2期四万十市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂（案）について説明

【質疑等】

特になし

5 その他

【質疑等】

特になし

6 閉会